

本からもらった 踏み出す勇氣



「人を通して本を知る。本を通して人を知る。」

みなさんは、「ビブリオバトル」を知っていますか。ビブリオバトルとは「誰かにすすめたい」と思う本を紹介しあうものです。発表後に質疑応答をして、「一番読みたくなった本」に投票し、最も人気を集めた本がチャンプ本に選ばれます。公式ルールでは5分ですが、石峯中学校では3分で発表する「ミニビブリオバトル」が行われています。

先月、ビブリオバトルの最終決戦が行われ、実は私も参加しました。今ここにこうしているくらいです。きっとみなさんは「元々人前で話す事が得意なのだろう」と思われているかもしれませんが。残念ながら違います。むしろ、真逆。私は人前で話す事が大の苦手でした。ところが中学入学前の春休み、自分の

「人生を変える一冊」に私は出会ってしまったのです。

書店で偶然見つけた伊藤幸司さんのエッセイ本。タイトルは「激ヤバ」。変な題名に興味をひかれ、手に取りました。そこには、作者が芸人になるまで、芸人になってからの悩みや努力、考え方が書かれていました。この本に出会う前の私は、大勢の人の前で話すなんて考えられませんでした。だからこそ、舞台に立つて人を笑わせる芸人さんにとっても憧れていました。心のどこかで「自分には絶対に無理」と諦めていた私。ですが、本を読み進めるうちに考えが変わってきました。作者も、人前に立つのが得意ではなかった事、ただ「お笑いが好き」という気持ちだけで夢を目指した事を知り、私は「好き」や「憧れ」だけでも一歩をふみ出しているのだと気づきました。

家族が眠った夜、静かに本を開く。ページをめくるたび、心は本の世界へと引き込まれていく。そんな時間の中で、私は日々勇氣をもらっていたのです。作品に出てきた「この本を通じて

石峯中学校 二年 森本 結稀

僕と心の中でお友達になりましょう！」という言葉は、本と人との新しいつながり方を私に教えてくれました。

中学生になり、「皆さん、ビブリオバトルに挑戦しませんか？」という先生の呼びかけに、迷わず、あの本を紹介する事に決めました。緊張しながらも心を込めて発表し、クラス予選を通過し学年代表となり、文化祭で発表する事になりました。足が震えるほど緊張しましたが、出番前に本を読み返すと、不思議と気持ちが落ち着き、「この本の魅力を伝えたい」と笑顔で発表する事ができました。

この経験を通して、本には人の心を動かす力がある事、自分の想いを言葉にして伝える喜びを私は知りました。そして、2年生になった今年も、本への熱い思いを持って2度目のビブリオバトルへ挑戦したのです。

現在、私は図書副委員長として図書館の日々の運営をしています。放送で来館を呼び掛けたり、企画展示をしたりして、去年より来館者数が大きく増えました。今年のビブリオバトルでも、「図書館で出会った一冊」と紹介する人が多く、図書委員の取組が本との出会いを生み出している事を実感しています。友達が紹介した本を探しに来る人。紹介した本を通して友達の

意外な部分に気づく人。本の可能性は無限大です。本の魅力に気づけた事、本からもらった勇気で一步を踏み出せた事を私は誇りに思っています。

最後に、ここにいる皆さんにぜひ、お伝えしたい事があります。本と出逢うタイミングや場所は様々です。私たちの町、若松区には海を眺めながら本と触れ合える魅力的な図書館があります。こんな素敵な場所にある図書館を私は他に知りません。読書が目的でなくても構いません。ぜひ、足を運んでみて下さい。

そして、景色を楽しむに行ったその日、ふと手に取った一冊が、もしかしたら、「人生を変える」新たな出会いになるかもしれない。



朝のスタート

二島中学校 二年 加治屋 陸



皆さん、こんにちは。皆さんは朝、あいさつをしていますか。

私は毎朝、あいさつをしています。朝起きたら家族に「おはよう」と言います。家族も皆、「おはよう」と返してくれたり、私も「おはよう」を返したりしています。私は「おはよう」は気持ちのいい朝の始まりの言葉だと思っています。

私の通う二島中学校では、毎月10日や20日など0のつく日に生徒会執行部と代議員で、朝のあいさつ運動を行っています。生徒の下足置き場の前に並んで、いつも「おはようございます」と自分からあいさつをしています。私が初めてこのあいさつ運動に参加したのは、一年生の秋でした。下級生の自分から先輩方にあいさつすることも多く、あいさつを返してくれるかなという不安がありました。しかし、実際にしてみると、あいさつ

を返してくれる人が多くて、とてもうれしかったことを覚えています。

今、二島中学校では、生徒会を中心に、「いじめ0」をめざそう！と全校生徒に呼びかけています。そして、この呼びかけに賛同してくれる生徒にオレンジリボンを配って名札の横につけ、いじめ防止の意識を高くするオレンジリボン運動を行っています。私たち生徒会執行部には、このオレンジリボンをたくさんの人にもらつてもらい、楽しくいじめのない学校生活にしていきたいという願いがあります。

このいじめ0のオレンジリボン運動を進めるためにも、生徒どうしの日ごろからのコミュニケーションが大切だと思います。朝のあいさつ運動を気持ちを込めて行っています。こちらがさわやかにあいさつすると、さわやかにあいさつを返してくれる人がいます。そんな時はとてもうれしいです。しかし、中には、あいさつをしても返してくれなかったり、無表情で通り過ぎた

りする人もいます。私は、あいさつをお互いにととてもいい気持ちになると思うのですが、なかなかうまくいかないなと思ってしまうことがあります。そんな人の中には、もしかすると朝は眠くて気持ちも上がってないので、大きな声のあいさつをうるさく感じたり、あいさつを返すのを面倒くさく感じたりしているのではないのかなと思ったりします。また、日ごろからあまりあいさつする習慣がないのかなと考えたりもしました。

そこで、そういう人たちに対して、私は、あいさつの仕方を変えてみようと思いました。あいさつの声を大きすぎず、小さすぎず、相手の心に響くような声であいさつを試みるようにしました。それは、声が大きすぎてストレスを感じたり、小さすぎて聞き逃したりすることがないようにとの思いからです。これが続いているうちに、何人かは、返事を返してくれたり、小さくうなづいてくれたりするようになりました。そんな小さな反応でも、私は思いが通じたような気がしてとてもうれしかったです。

このあいさつ運動を通して、あいさつは、そのしかたや習慣も違うし、あいさつに対する思いも違うのかなと感じるようになりました。そこで、私は、あいさつ運動がよりよい学校生活

の向上につながるために、あいさつのメリットについて考えてみました。それは、大きく二つです。一つ目は、自分の心理的なメリットです。これはお互いに「おはよう」と言い合うことで、やさしい気持ちが生まれてストレスが軽減し、気分も上がって自己肯定感が高まるということです。また、あいさつを交わす習慣があると、孤独感を減少させたりします。二つ目は、社会的なメリットです。あいさつは、他の人がいることで成り立つものです。学級や部活動で、みんなであいさつしたり、し合ったりすることで、チームとしての一体感を高めたり、よりよい人間関係をつくるきっかけにもなります。

この二つのメリットは、自分にも自分の周りにもあたたかな雰囲気をつくってくれます。

あいさつは私たちの心をつなぐ大切な習慣です。私は、自分にも二島中学校のみんなにも大きなメリットが増えるように、これから朝のあいさつ運動を続けていきます。そして、いじめが0になるように、まずは朝のあいさつから始めていきたいと思っています。

私を変えた「あいさつ」

高須中学校 二年 緒方 葉菜

「何をしているんだ？」この原稿を書いていると、部活動の顧問の先生が話しかけてくださいました。「あいさつのことについて書いています。」「そういえば、あなたはあいさつをよくするね。しかも、立ち止まってしてくれるからすごいと思うよ。」今ではそんな私ですが、幼い頃は、あいさつをせずに怒られることがありました。

小学校入学後、いろいろな場面で人と関わるようになり、自分からあいさつをするようになりました。ただし、それは廊下などで人とすれ違う時だけのあいさつでした。

高学年になり、私には新しい友達ができました。その友達は、いつも朝一番に笑顔で、大きな声で「おはよう。」とみんなにあいさつをしていました。そのあいさつは、みんなの心を明るくし、私たちは彼女のおかげで、一日の最高のスタートを切ることができていました。そして、気が付けば、「私もこんな素敵なあいさつができるようになりたい」と思い始めていました。

私は、「朝は笑顔で自分から『おはよう』と言おう。」と決心しました。しかし、実際にやろうとしても、「あいさつを返してくれなかったらどうしよう。」「知らない人にあいさつされて嫌がられたらどうしよう。」と余計なことを考えてしまい、「おはよう」というたった一言を声にする勇気が出ませんでした。

一か月ほどが経った頃、おはようと言えなかったことで、友達と気まづくなってしまうことがありました。その時、あいさつをしないで後悔するよりも、して後悔する方が良いと思いました。

翌日、思い切って担任の先生に大きな声であいさつをしました。すると、「良いあいさつだね。」とほめてくださいました。先生のこの一言で、私は自信をつけることができ、「朝一番のあいさつをずっと続けていこう。」と思うようになりました。

それ以降、自分からあいさつをしなかった日は無いと言えるほど、私は毎日積極的にあいさつをしてきました。地域の人に

もあいさつができるようになり、コミュニケーションの力を伸ばすことにもつながっていました。

しかし、中学校入学という出来事で、また変化が訪れました。小学校に比べて生徒数も増えて、周りは知らない人だらけになり、再び自分からあいさつができなくなってしまったのです。

そんな私を変えてくれたのは、剣道部の存在です。入学後の部活動見学で、先生に対してはもちろん、部員同士でも自分からあいさつをすることが当たり前、そんな礼儀を重んじる先輩方の姿を目にしました。私は、その姿にも格好良さを感じ、入部を決めました。顧問の先生からは、「部活動の時だけではなく、日々の学校生活でも返事やあいさつはきちんとするように。」と指導されました。毎日、自分から大きな声であいさつをするように心がけているうちに、自然に誰にでもあいさつができる自分を取り戻すことができました。

あいさつをするときには、メリットしかないと思えます。例えば、相手に顔を覚えてもらえる、話すきっかけになる、相手や周りの人に明るい印象を与えるなどです。さらに、あいさつに笑顔がプラスされると、お互いに安心感が生まれ、良い気持ちになります。

私は、これからどんなに環境が変わっても、あいさつとい

う一瞬の人との関わりを大切にして、朝は笑顔で自分から「おはよう。」と言おうと決めています。そして、そんな私の姿が、いつか誰かのあいさつを始めるきっかけになればよいと思います。

